

不整脈診療における診療看護師（JNP）によるタスクシフトの有用性

長澤 領[†] 佐々木 毅 下里 光 田原智大
瀬上 将太 早坂和人 渡辺 敬太 白井康大
清水 茂雄

第76回国立病院総合医学会
2023年10月7日 於 熊本

IRYO Vol.78 No. 2 (98-101) 2024

要旨

【背景】診療看護師（JNP）によるタスクシフトは、医師の負担軽減や多職種との連携強化を可能とするが、不整脈診療に従事する診療看護師（JNP）は少なく、その役割は明らかではない。【目的】当院の不整脈診療においてJNPの役割を明らかにし、JNPによる医師業務のタスクシフトの有用性を明らかにする。【方法】JNPが循環器内科不整脈チームへ参加した2016年4月から2022年7月末までに、不整脈診療においてJNPが従事した業務内容を調査した。【結果】6年4カ月の間に計2,052例の不整脈手術に助手としてJNPが参加した。内訳は①カテーテルアブレーション1,425例（手技時間合計3,431時間・平均542時間/年）、②心臓デバイス植込み術557例（計865時間・平均137時間/年）、③経皮的左心耳閉鎖術70例（計72時間・平均39時間/年）であった。カテーテルアブレーションでは助手以外に医師の指示下にマッピングシステムや刺激装置の操作、電位解析、術中麻酔管理をおこなった。JNP配属前は医師2人で対応していた各手術が、JNPが助手に入ることによって基本的に医師1人での対応が可能となった。また、手術室で行う経皮的左心耳閉鎖術の場合は循環器内科・手術室・麻酔科・放射線科・業者との連携をJNPが中心となって行うことでスムーズな運営が可能であった。【考察】不整脈診療におけるJNPの役割は多岐にわたり、医師の負担軽減だけでなく、安全性の向上にも寄与すると考えられた。JNPが手術助手業務を行う中で、安全な手術の実施が可能であり、多職種との密な連携によって円滑な診療の提供が可能と考えられた。【結語】不整脈診療におけるJNPによるタスクシフトは有用であることが示唆された。

キーワード タスクシフト、診療看護師、JNP、不整脈診療

背景

本邦における診療看護師（JNP）教育は2008年よ

り開始され、一般社団法人日本NP教育大学院協議会におけるNP資格認定者数は2022年3月現在670名であり、各々が全国で活躍している。2024年4月よ

国立病院機構災害医療センター 循環器内科 †診療看護師
著者連絡先：長澤 領 国立病院機構災害医療センター 循環器内科
〒190-0014 東京都立川市緑町3256

e-mail：ryo.ngsw.0121@gmail.com

(2023年2月19日受付 2023年12月15日受理)

Task shifting by Nurse Practitioner (JNP) in Clinical Care for Patients with Cardiac Arrhythmia

Ryo Nagasawa, Takeshi Sasaki, Hikaru Shimosato, Tomohiro Tahara, Shota Segami, Kazuto Hayasaka, Keita Watanabe, Yasuhiro Shirai, and Shigeo Shimizu

NHO Disaster Medical Center, Department of Cardiovascular medicine
(Received Feb. 19, 2023, Accepted Dec. 15, 2023)

Key Words : task shift, Nurse Practitioner, JNP, cardiac arrhythmia